身体障害者補助犬の訓練及び認定等のあり方検討会
認定要領及び訓練基準の見直しに係るワーキンググループの開催スケジュール（案）

資料1

回数	開催時期	意見交換内容等
第1回	平成31年4月26日	○ 身体障害者補助犬の訓練・認定等に関する課題と対応案（フリートーキング）
第2回	令和2年5月29日 （書面開催）	○ 身体障害者補助犬の訓練事業所、指定法人における論点別の意見の集約
第3回	令和2年12月11日	○ 今後の議論の進め方について ➢ 検討会における議論の進め方について ➢ 補助犬の訓練基準、認定要領の見直しについて ➢ 補助犬の質の向上、普及に向けた課題について
-	令和3年1月15日～ 令和3年2月1日	○ 訓練事業者・指定法人へのヒアリング
第4回	令和3年3月8日	○ ヒアリング等を踏まえ、補助犬の訓練基準、認定要領の見直しに向けた再検討 ○ 訓練基準等の見直しに関するワーキンググループ発足について
WG	令和3年7月26日	○ 認定要領の見直しに係るワーキンググループ（全3回）
	令和3年8月24日	
	令和3年9月24日	
第5回	令和3年10月22日	○ 認定要領の見直し案について
WG	令和3年11月～	○ 訓練基準の見直しに係るワーキンググループ（全3回）
第6回	令和4年2月～3月頃	○ 訓練基準の見直し案について

第1回	令和3年11月15日（月）	○ 訓練基準の見直しに係るワーキンググループ
第2回	令和3年12月頃	○ 訓練基準の見直しに係るワーキンググループ
第3回	令和4年1月頃	○ 訓練基準の見直しに係るワーキンググループ
第6回	令和4年2月頃	○ あり方検討会（訓練基準の見直し（案））

身体障害者補助犬の訓練及び認定等のあり方検討会
訓練基準の見直しに係るワーキンググループ構成員

○身体障害者補助犬の訓練については、身体障害者補助犬法施行規則に定める訓練基準に基づき、「介助犬訓練基準」、「聴導犬訓練基準」を指針として活用している。補助犬の質の向上や使用者からの視点からこれら基準の見直しを行うにあたり、あり方検討会に医師、獣医師、専門職、ユーザー、訓練事業者で構成するワーキンググループを発足する。

■構成員（五十音順・敬称略）

氏　名	所属	役割
阿部　明子	特定非営利活動法人 日本サポートドッグ協会	訓練事業者 (介・聴)
有馬　もと	社会福祉法人 日本聴導犬協会	訓練事業者 (介・聴)
江藤　文夫	日本リハビリテーション連携科学学会	座長・医師
北澤　光大	特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会	訓練事業者 (介)
木村　佳友	日本介助犬使用者の会	介助犬ユーザー
佐藤　史子	公益社団法人 日本理学療法士協会	専門職
砂田　眞希	一般社団法人 ドッグフォーライフジャパン	訓練事業者 (介・聴)
立石　雅子	一般社団法人 日本言語聴覚士協会	専門職
朴　善 子	公益財団法人 日本補助犬協会	訓練事業者 (介・聴)
松本　江理	日本聴導犬パートナーの会	聴導犬ユーザー
水上　言	社会福祉法人 日本介助犬協会	訓練事業者 (介)
水越　美奈	日本獣医生命科学大学	獣医師
水越　みゆき	公益社団法人 日本聴導犬推進協会	訓練事業者 (聴)
森戸　崇行	公益社団法人 日本社会福祉士会	専門職
吉田　文	一般社団法人 日本作業療法士協会	専門職

1.事業の目的

以下について、調査・検討を実施し、とりまとめを行う。

- 身体障害者補助犬の訓練及び認定等のあり方について具体化する介助犬・聴導犬の訓練基準ならびに介助犬・聴導犬の認定要領の見直し検討に向けた分析及び課題の整理
- 今後の施策の方向性など

2.事業の内容

(1) ワーキンググループ（WG）の設置・運営等による実態の把握

以下のWG及びヒアリング等により、介助犬・聴導犬の質の向上及び普及に向けた現状分析及び課題を整理する。

- WGによる訓練・認定の実態の把握、普及に向けた課題の抽出
- 訓練事業者/指定法人のヒアリング及び現地調査による実態の把握
- 専門職等のヒアリングによる課題の整理

(2) 介助犬・聴導犬の質の向上及び普及に向けた実態の整理・分析

介助犬・聴導犬の質の向上及び普及に向けた現状分析並びに課題を整理するため、訓練基準・認定要領にかかる実態等の整理・分析を行う。

① 訓練基準・認定要領にかかる実態の把握

- ■訓練事業者及び指定法人の取組実態の整理
- ■既存の基準と実態の比較分析
- ■検討項目の抽出

② 介助犬・聴導犬の質の向上及び普及に向けた実態の把握

- ■介助犬・聴導犬ユーザーの視点から見た質の向上・普及に向けた実態
- ■専門職等の視点から見た質の向上・普及に向けた実態

(3) 今後の介助犬・聴導犬の質の向上及び普及の取組のあり方の整理

実態等の把握に基づき、今後の介助犬・聴導犬の質の向上及び普及のあり方を整理する。